

平成20年度 地域食育推進活動事例集

岡山県保健福祉部健康対策課

はじめに

近年、食生活をめぐっては、栄養の偏りや不規則な食事などに関連する肥満や生活習慣病の増加、生活習慣を形成していく時期にある子どもの朝食欠食、伝統的な食文化の継承の危機、食の安全への不安等、様々な問題が生じています。

こうした、様々な経験を通じて、食に関する知識と食を選択する力を身に付け、健全な食生活を送ることができる人づくりのための食育の推進がもとめられています。

そのため、国では食育を国民運動として推進するため、平成17年に食育基本法を制定し、この法に基づき、平成18年に食育推進基本計画を策定しました。

岡山県でも、「岡山県食の安全・安心の確保及び食育の推進に関する条例」を制定し、家庭や学校、ボランティア、地域等の協働により食育を効果的に推進するため、食育に関する施策や具体的な目標を盛り込んだ「岡山県食育推進計画」を策定し、各種事業に取り組んでおります。

本事例集は、その一環として、平成20年度に県内の保健所や関係団体の皆様が実施した食育活動を取りまとめたものです。

今後も、県民一人ひとりが、食育を通じて「食」の大切さを意識し、様々な食に関する経験を積み重ねていくことで、健康な生活習慣を身に付け、豊かな人間性を育むことができるよう、関係団体との協働のもと、地域における食育活動の推進に取り組んでまいります。

平成21年3月

岡山県保健福祉部健康対策課長

則 安 俊 昭

目 次

1	岡山県における食育推進体制	1
2	地域（保健所）における取組み	1
3	食育推進モデル地区の取組み	2
4	地域における食育推進	2 1
5	関係団体における食の安全・食育推進の取組み	2 9
6	食育推進の今後の方向	4 3

1 岡山県における食育推進体制

岡山県では、知事を本部長とする岡山県食の安全・食育推進本部を設置し、食育を効果的に推進するための具体的な手法等について検討をしています。

また、食育に関わる関係者（消費者、生産者、食品加工・流通業者、教育関係者、ボランティア団体、学識経験者等）で構成する岡山県食の安全・食育推進協議会を設け、県民との協働による食育の推進について検討しています。

2 地域（保健所）における取組み

（1）地域食育推進協議会の設置

各保健所に、食育の関係者等が情報や意見を交換し、連携が図れるための地域食育推進協議会を設置し、地域の特性を生かした具体的な食育活動についての検討を行うほか、食育推進の課題や方向性を検討しています。

（2）食育推進モデル地区

各保健所に1ヶ所「食育推進モデル地区」を指定し、地域で活動する関係団体等が連携し、地域での食育を推進するための事業を実施しています。

（3）食育推進リーダーの養成

県、市町村の行政関係者、地域で食育に携わっている者（関係機関、関係団体等も含む）で、保健所管内のあらゆる面でリーダーとして活動できる者を対象に、地域における食育を推進するために必要な知識の習得等を目的とした食育推進リーダー養成研修会を実施しています。

食育推進モデル地区の取組み

食育推進モデル地区の取り組み

保健所名 岡山保健所



地 区	吉備中央町御北地区	
実施主体となつた団体	吉備中央町地産地消推進協議会	
	<p>(団体の特徴)</p> <p>地産地消推進協議会の中に広報・食育部会があり、積極的に食育の推進を図っている。</p>	<p>(団体代表者)</p> <p>氏名 上 田 栄 一</p>
取組内容	<p>(地区の特性・選定理由)</p> <p>吉備中央町御北地区では、以前から親子料理教室等食育に関する事業を実施している。その輪を広げていくために、町内の各種団体等で構成されている地産地消推進協議会の部会の一つである広報・食育部会が中心となって、栄養改善協議会等各種団体と連携し、食育の推進を図っていく。</p>	
	<p>(具体的な内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町地産地消推進協議会の開催 地域での食育を連携して実施するため、各種団体で構成されている。この協議会の広報・食育部会が中心となって、事業の推進について協議検討し、問題点を解決していく。 ・料理教室の開催 地区内の子ども教室において幼稚園・小学校・先生・保護者・地域住民と地元で採れた野菜等を使用して料理教室を開催する。 ・かんたんレシピ集の作成 小学校に呼びかけて「かんたんレシピ集」を作成する。小学校では、夏休みの宿題として家庭内で相談し、「家庭の味」として作成した。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>	

	<ul style="list-style-type: none"> 関係団体が連携しての食育の実践 愛育委員・栄養委員・JA婦人部等により地域食材を活用して、料理教室を実施する。合わせて、作成した「かんたんレシピ集」を活用して食育の推進・啓発を行う。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>
<p>実施後の結果、成果、効果等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 小学校や幼稚園が愛育委員や栄養委員、JA等産地消推進協議会に 関係する各種団体と連携して食育の事業を実施することにより、 食に関する総合的な知識の習得のみならず、家庭、地域等とのつな がりを深め、今後の食育の事業を実施する基ができた。 「かんたんレシピ集」の作成により、料理教室等において参考となる 基ができ、これを更に発展させていくことができる。
<p>事業を実施して明らかになった課題</p>	<p>田舎といえども、隣近所とのつきあいが親密でなくなり、この事業により改めて家庭、地域のつながりの重要性に気付かされた。</p>
<p>今後の展開</p>	<p>栄養改善協議会等産地消推進協議会の構成員が中心となって、各種団体等と連携し、学校や地域において「かんたんレシピ集」を活用した料理教室等食育の推進を図っていく。</p>

食育推進モデル地区の取り組み

保健所名 東備保健所

地 区	和気郡和気町 日笠地区・藤野地区	
実施主体となつた団体	和気町栄養改善推進委員会	
	(団体の特徴) 「町民の健康は私たちの手で」をスローガンに、町民に正しい食生活の普及啓発に努めている栄養改善ボランティア	(団体代表者) 草加 みどり
取組内容	(地区の特性・選定理由) 当地区は、住民の結びつきも強く、現在様々な住民活動が展開されている。健康づくり活動をはじめ、食育活動もその一つである。当事業を行うことで、さらに子どもたちの食を育むことはもちろんのこと、地域が一体となり「食育推進」の基盤を作っていくことができるため選定した。(東備地域食育推進協議会において和気町を選定)	
	(具体的な内容) 当地区の小・中学生の約9割が朝食を食べている(H20年度調査)が、中にはパンのみ、菓子のみという子どももいるのが現状である。そこで、「おみそ汁で朝から元気いっぱい!」というテーマのもと、教育機関・各種団体・地域の協力者と、食育の内容・方向性を検討しながら、協議を進めた。	
	1 大豆を植え、育て、収穫し、みそを作り、みそ汁を食す	
		農家の方、教育機関、栄養教諭、養護教諭、PTA、栄養委員、愛育委員他多くの地区の方が携わり実施した。この他にも、しょう油について学んだり、収穫した豆を使つての豆腐作りを行った。
		【工夫した点】 ●地域の様々な人に関わってもらいながら事業を進めることが出来た。 ●みそ作りについて、国語教材「すがたをかえる大豆」(3年生)にて、事前に豆について学習した後に行ったので、より興味を持って取り組むことができたようだ。
		●PTA に対しては、学校保健委員会の場で、栄養教諭、養護教諭、町栄養士が「朝食にはせめてごはんのみそ汁を」と講話し、また栄養委員は試食を実施し、啓発を行うことができた。 ●それぞれの対象に応じた内容で実施したので、より理解が深まったのではないかと考える。

<p>取組内容</p>	<p>2 ふるさと料理教室（すもも・りんご・魚）</p> <p>ふるさと教員（※）、栄養教諭、和気町栄養士会、栄養委員、PTA が携わり実施した。</p> <p>※地域を教材化し地域に根ざした教育活動を展開する教員。</p> <p>和気町の特産であるすももやりんごを使ったジャム作りを実施。また、2月には節分にちなんで、いわしを使った料理を実施した。</p> <p>【工夫した点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● そのとき使用した食材をテーマとした、クイズを実施し、楽しみながら食について理解を深めるような時間を作った。 ● 魚屋さんに目の前で魚をさばってもらったり、手に触れることで新たな興味を引き出すようにした。  <p>りんごジャム作り</p>  <p>クイズも実施</p> <p>3 幼稚園や小学校・中学校での指導・広報活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 栄養委員が中心となり、各園・学校で朝食の大切さについてのペープサートやエプロンシアターを実施。 ● 和気町の広報誌にその食育活動の様子を掲載し、食の大切さを訴えた。
<p>実施後の結果、成果、効果等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 大豆について、栽培から一貫して携わることで、「豆」に対して、また、食べ物に対して、感謝の気持ちが芽生えた。 ● 親子クッキングでは、親子が触れ合う機会になったことはもちろん、「家で料理をもっとさせておけばよかった、これからは一緒にしていきたい」と保護者からの感想があり、今後家庭で親子と一緒に料理をするきっかけとなった。 ● 地域の特産物を使ったクッキングであったので、新たな一面から自分の故郷をさらに知ることができ、愛着が持てた。
<p>事業を実施して明らかになった課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校が休みである土日でも、子どもたちは様々な活動（スポーツ少年団等）に参加しているため、参加者が限られる。 ● 当事業により、各種団体・委員と連携をとることは出来たが、さらに広く地区の住民を巻き込むことを考えていく必要がある。 ● このような活動は「継続」することに意義があるので、来年度も今の連携を崩さないよう事業を進めていく。
<p>今後の展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 今回、大豆栽培からみそづくりを体験することにより、食への関心と感謝の気持ちが深まったようであるが、今後は、他の栽培についても体験させていきたい。 ● 今回出来た「横」の連携を、モデル地区だけでなく、全町に広めていく必要がある。各地区の人材・資源を上手に活用しながら、円滑に食育を広めていくことが大切である。 ● 子どもたちが、一人一人が正しい食生活を身につけ成長していくよう、地域の皆がともに支援していくよう努める。

食育推進モデル地区の取り組み

保健所名 倉敷保健所

地区	総社市	
実施主体となった団体	総社市栄養改善協議会	
	(団体の特徴) 栄養改善ボランティア	(団体代表者) 氏名 岡本安子
取組内容	<p>(地区の特性・選定理由)</p> <p>昨年度モデル地区とした山手地区の食育活動を市全体に波及させるための取組の1つとして総社の伝統の味、地域に根付いた料理等を掘り起こし「そうじゃの味」として冊子にまとめた。</p> <p>また、モデル地区では「山手地区食育をすすめる会」を中心として地域に根付く食育を目指して活動を継続している。</p>	
	<p>(具体的な内容)</p> <p>1 冊子「そうじゃの味」の作成</p> <p>それぞれの家庭や各地区で昔から作られていた行事食や郷土料理が、核家族化や食に関する意識の変化などにより伝承されにくくなっていることから、後世に伝えていきたい料理を季節ごとに、その地域で収穫された食材を使用し、作り方、分量、などを整理し、写真を添えて冊子にまとめ、普及を図ることにより、食文化の伝承や地産地消の推進を行う。</p> <p>2 山手地区食育をすすめる会の活動について</p> <p>(1)「山手地区食育をすすめる会」</p> <p>食育関係16団体・機関・行政で構成され、山手地区の食育を核となって推進している。</p> <p>(2)「わが家のイチオシ朝ごはん」(朝食メニューコンクール)</p> <p>昨年度実施した、食生活実態調査結果をもとに、子どもたちの朝食を充実させるため実施した。コンクールの入賞献立は学校給食のメニューとして全市に普及するとともに、山手地区内の「もてなしの館」で定食として紹介する予定である。また、リーフレットにまとめ、朝食充実のための資料として配布予定。</p> <p>(3)地区内で行われるイベントへの参加及び他団体組織との連携</p> <p>○地区内のイベントに参加して行った「食育」の普及啓発活動。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山手地区「ドリームフェスタ」 <p>吉備路商工会主催。子どもたちが自分で野菜入りホットケーキを焼くコーナーを設け、自ら作ることの楽しさを学ぶ場の提供を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「山手地区公民館まつり」 <p>イベントスペースを設け、食育SATシステムによる食事のバランスを診断の実施。食育クイズを行い地域の食材への理解を深めた。また、正しい手洗い方法の体験や食育紙芝居を上演した。これらを通じて食への関心や自分の食生活を振り返る機会の提供、衛生意識の向上などを図った。また、地域の食材を中心とした食事バランスガイドのタペストリーを作成し、展示を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山手地区健康福祉フェア <p>試食、体験イベントなどを行い食育の推進を図る。(3月15日予定)</p>	

	<p>○構成団体が行う食育活動への参加、連携して行った行事等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生の食育体験事業 備南食品衛生協会と共催し、子どもたちを中心に手打ちうどん作り及び工場見学、食の科学実験などを通じて食の安全・安心についての理解を深めた ・幼稚園における料理教室、保育園における料理教室、愛育委員会、栄養改善協議会、母子クラブによる親子料理教室、愛育委員会、栄養改善協議会合同の生活習慣病予防教室、商工会による独居老人ふれあい事業など <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>小学生の食育体験事業</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>山手地区ドリームフェスタの様子</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>山手公民館まつり食育SAT</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>わが家のイチオシ朝ごはん審査風景</p> </div> </div>
<p>実施後の結果、成果、効果等</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 「そうじゃの味」の作成について 冊子を作る過程において、調理方法や使用する食材などを栄養委員同士が再確認でき、伝承をすることや来年度の普及に対する意欲が高まった。 2 山手地区食育をすすめる会の活動について <ol style="list-style-type: none"> (1)それぞれの構成団体の活動に加え、協力や協働で行えるものは情報交換をしながら共に取り組むことにより効果的に実施をすることができた。 (2)「わが家のイチオシ朝ごはん」ではコンクール献立が学校給食として、全市に紹介されることや「もてなしの館」で定食として一般に提供していただくなど、地域への広がりが出ている。
<p>事業を実施して明らかになった課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 「そうじゃの味」を全市に普及する効果的な取組を検討する。 2 昨年度のアンケート結果から①朝食内容を工夫②「家族で朝食を食べる」ことを推進③子どもの頃から家族一緒に「食」と接する機会を持つ④「食育」の内容等について特に男性を中心にした普及啓発⑤郷土料理や食文化の伝承、以上5点について継続し推進していく必要がある。 3 イベントへの参加だけでなく、山手地区食育をすすめる会の構成団体・組織の通常の食育活動においての連携や協力をさらにすすめていくための協議などが必要である。
<p>今後の展開</p>	<p>各構成団体が必要なとき、必要な団体と協働できるよう、今年度を振り返り、情報を共有する方法等を検討し、さらに食育の推進を図っていく。</p>

食育推進モデル地区の取り組み

保健所名 井笠保健所

地区	小田郡矢掛町美川小学校区	
実施主体となつた団体	矢掛町栄養改善協議会	
	(団体の特徴) 栄養改善ボランティア	(団体代表者) 氏名 多賀好恵
取組内容	<p>(地区の特性・選定理由)</p> <p>【現状】</p> <p>矢掛町で最も規模が小さい小学校で、全校生徒が46人である。このため、地区住民による学校行事等への協力も良く、モデル指定を機会に、地区全体で「食」を考える気運が高まると考えられ、選定した。</p> <p>【課題】</p> <p>三世帯同居が多く、与えられる食事に慣れた子ども達が多いため、一人ひとりが自立的に食生活を営む力の基礎を作る必要がある。</p> <p>【望ましい姿】</p> <p>子ども達が、地域や環境を含めたさまざまなつながりの中で、食べることの意味を理解し、自らの食生活を考え、実践できる力を身に付ける。</p>	
	<p>(具体的な内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○食に対する現状を知るため、アンケート調査の実施 ○ふれあい料理教室の開催 ○地域産物探検隊の実施 ○町内産の黒大豆を使用したレシピ集を作成し、地産地消の推進 <p>【工夫した点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全校生徒が少ない為、学校との連携を密にすると共に、保護者や地域住民を常に巻き込んだ形での活動になるようにした。 ○地域産物探検隊では、学校の社会科学習にあてはめた活動だけでなく、「みるみる探検隊」として、食品衛生協会と協力し、管内にあるタマゴ関連の工場を見学した。この時、リスクコミュニケーターとの意見交換を行い、食の安全・安心に対する理解が深まるようにした。 ○子ども達が「食育」で学んだ成果を踏まえ、保護者や地域住民の方に感謝の気持ちを込めたもてなしを行い、地域で「食」について考える場として「つどいの日」を設けた。 	
		

	 <p>【悪かった点】</p> <p>○ふれあい料理教室は、夏休みに実施したが、2日間とも午前、午後調理実習だけでなく、体操実技や工場見学等を併せて実施し、内容が盛りだくさんすぎたように思う。もう少し、日程をとり、ゆっくり各行事を行ったほうが子ども達の理解が深まったように思う。</p>
<p>実施後の結果、成果、効果等</p>	<p>○学校行事に組み込んだ結果が多かった為、子ども達が熱心に取り組めるだけでなく、保護者の理解も得やすかったと考えられる。</p> <p>○町内で作られている黒大豆のレシピ集を作成し、配布することで、一層の消費拡大を図ることが出来た。</p> <p>○地域で「食」を考える場である「つどいの日」を盛り上げようと、子ども達は自主的におにぎりや豚汁づくりの練習を家庭で繰り返し実践し、意欲的に行動することが出来た。</p> <p>○食育に関する調査をすることにより、矢掛町の現状を把握することができ、これからの対策を考えられる指標を得ることが出来た。</p>
<p>事業を実施して明らかになった課題</p>	<p>○外遊びのよく出来る環境にありながら、小人数のせい、肥満傾向にある児童が目についた。家庭を含めた肥満対策の必要性を感じた。</p>
<p>今後の展開</p>	<p>○矢掛町では、2ヶ所目のモデル地区指定である。今年度、現状を知る為に、美川地区だけでなく、町内全域で食育に関する調査を実施したので、調査結果と今までのモデル地区で培ったノウハウを活かした矢掛町食育計画を策定し、町内全域で食育を推進していきたい。</p>

食育推進モデル地区の取り組み

保健所名 高梁保健所

地区	高梁市宇治町	
実施主体となった団体	高梁市宇治町栄養改善協議会	
	<p>(団体の特徴)</p> <p>地域での活動を通じて住民に健康への自覚と認識を広めるとともに正しい食生活の普及浸透を図ることを目的とする。</p>	<p>(団体代表者)</p> <p>氏名 会長 小川 園恵</p>
取組内容	<p>(地区の特性・選定理由)</p> <p>宇治町は、人口760人という小さい町ではあるが、農業が盛んで、稲、大豆、ピーマンの生産者が多い。また、地域では各種団体、ボランティアの方々の活動が活発である。</p> <p>ゆえに、小学校、幼稚園、高齢者グループを中心とした食育の推進が効果的に実施できると考え、モデル地区に選定した。</p> <p>(具体的な内容)</p> <p>幼稚園児や、小学生を対象とした親子料理教室や、男性料理教室を開催した。調理実習は、園児が育てた野菜や地元で生産された野菜を使い行った。</p>	



手作り野菜は、大きさ形はふぞろいだけど、新鮮でおいしいよ！

宇治町の人が多く集まる「物産まつり」で、「手作りおやつ」の普及をテーマに栄養委員による蒸しパンの試食とレシピを配布した。蒸しパンは、栄養委員が畑で作ったほうれん草、さつまいも、栗などを入れて400個作りとても好評だった。また、エネルギー表示をした市販のジュースやお菓子の展示・説明し、手作りおやつの良さを伝えることができた。



同時に体脂肪測定も行い『食生活を見直してみませんか』と声かけをしていった。

また、幼稚園の餅つき、給食週間に小学校に訪問し紙芝居やクイズで交流をはかった。



栄養委員と地域の方々との研修会として調理実習と体操を行い親睦を深めることができた。

実施後の結果、成果、効果等

親子料理教室で「野菜や朝ごはんの大切さがよくわかった」という、保護者の声を聞くことができた。野菜の苦手な児童も自分たちで作った料理を頑張って食べるという姿が見られた。

宇治町の様々な世代の人を対象に事業をすることができ、多くの人に食育に関心をもってもらうことができた。地域の将来を担う子ども達は、数少ないが、世代交流をし、みんなで楽しく活動できた。

事業を実施して明らかになった課題

物産まつりで栄養委員コーナーを訪れる地域の方が思っていたより多かったのも、食育に関心がある方が多いということがわかった。

今後の宇治町の食生活講習会には事前に広報活動をしっかりしてより多くの方に参加してもらうように努めたい。

今後の展開

今後も地域の子ども一人一人が健やかに成長し、望ましい食生活がおくれるよう地域の方と共に支援していくように努めたい。

<p>地 区</p>	<p>新見市哲西地区</p>			
<p>実施主体となつた団体</p>	<p>特定非営利活動法人 NPOきらめき広場</p> <table border="1" data-bbox="386 365 1430 577"> <tr> <td data-bbox="386 365 1104 577"> <p>(団体の特徴)</p> <p>まちづくり全般を使命として活動しており、特に、健康づくりを中心とした地域包括ケアの推進を図る活動を展開中、地域内14団体で構成する地域包括ケア推進会議を主宰。市民主導の「健康福祉まつり」など開催した。</p> </td> <td data-bbox="1110 365 1430 577"> <p>(団体代表者)</p> <p>氏名 奥津一富美</p> </td> </tr> </table>		<p>(団体の特徴)</p> <p>まちづくり全般を使命として活動しており、特に、健康づくりを中心とした地域包括ケアの推進を図る活動を展開中、地域内14団体で構成する地域包括ケア推進会議を主宰。市民主導の「健康福祉まつり」など開催した。</p>	<p>(団体代表者)</p> <p>氏名 奥津一富美</p>
<p>(団体の特徴)</p> <p>まちづくり全般を使命として活動しており、特に、健康づくりを中心とした地域包括ケアの推進を図る活動を展開中、地域内14団体で構成する地域包括ケア推進会議を主宰。市民主導の「健康福祉まつり」など開催した。</p>	<p>(団体代表者)</p> <p>氏名 奥津一富美</p>			
<p>取組内容</p>	<p>(地区の特性・選定理由)</p> <p>哲西地区は、健康づくりが活発で、協働でいろいろな事業が展開されているので、食育の事業をすることにより、より一層の事業展開が行われ他の模範となるため選定した。</p> <p>(具体的な内容)</p> <p>①親子料理教室（小学校1年生・2年生各支会活動）</p> <p>色々な野菜があることを学び、児童が育てたミニトマトなどを材料に児童が料理に挑戦、食の大切さを身につけた。子供の包丁さばきも様になっていた。幼児学園では、劇団あいく（愛育委員）による食育人形劇による食への関心を深めた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>②自己研修活動</p> <p>6回開催。管理栄養士の指導で伝承料理・減塩料理等を学び地域料理教室指導の技量を高めた。</p> <p>③地域食育教室</p> <p>栄養委員が自己研修をもとに地区内（哲西地域内3地区）の市民に伝達研修を行い食育の推進を図った。（地域のコミュニティーの増進を心がけた）</p> <p>④きらめきクッキング教室</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>一般市民向けに開催し、調理に関心を持つよう伝承料理学習を進めるとともに、簡単な作り方など若年層にも取り組んでもらえる工夫をした。</p> </div> </div>			

	<p>⑤地域特産野菜栽培の取り組み 新開発の食材「紫イモ」苗つくり小学生が挑戦し、野菜生産農家が栽培する試みが成功をおさめ、平成21年度5000本のイモ苗頒布に向けて意気が上がっている。野菜生産組合が旬の野菜を学校給食センターに納入。</p> <p>⑥学校地域食育連携教室 野馳小学校・PTA・野菜生産組合・婦人会・特産みそ生産組合などが連携し食材の生産・収穫・加工の体験学習を実施。また、年末には、農業体験で収穫した餅米で餅つき大会や巻き寿司、伝統料理等を体験し、食の大切さを学んだ。</p> <p>⑦小学生と老人のコラボレーション 小学生農業体験（田植、稲刈り）により収穫した餅米で餅つき大会を開催した。また、わらを使ったお正月の注連縄つくりを伝承（作製した子どもたちが地域内の高齢者世帯に贈呈）・・・食の重要性を学び伝統文化を伝承した。</p>  <p>⑧きらめき健康福祉まつり（7月12日） 栄養委員や愛育委員など地域内14団体の連帯組織「哲西地域包括ケア推進会議」が新見保健所等と協働し“元気で過ごす一生・食育のすすめ”を副題としたきらめき健康福祉まつりを開催。メタボ予防講演や食育サット、食育フェア、歯科健康指導、診療所探検隊、食育ポスター展など、多彩な催しで食育推進を図った。市民約500人が参加する。</p>
<p>実施後の結果、成果、効果等</p>	<p>①親子料理教室を通じ親子の食へのコミュニケーションがはかれ、子供が料理や食に関心を持った。（母親たちの反応） ②自ら学んだことを料理教室などでしっかり伝えていくという高い意識が芽生えた。 ③男性料理教室により、男性にも食の大切さが伝わった。 ④健康づくりにとって「食」が大事なことの認識が広まった。 ⑤「食育サット」の活用は、効果が上がった。 ⑥小中学生から高齢者までが一緒に「食」を考える機会となった。 ⑦田植から稲刈りまで体験できて米という食物（主食）に対する認識を新たにしました。</p>
<p>事業を実施して明らかになった課題</p>	<p>食育の輪を広げるには、各種団体との連携による息の長い活動が必要です。継続した活動を行ってこそ成果があがるもの一過性の支援では限界がある。食育の取り組みは、地域の様々な団体との連携を密にしていかないと効果が上がらない。 今後の継続に資するために、これまでの活動実績を取りまとめた報告書を本年度末（計画進行中）までに作成する。</p>
<p>今後の展開</p>	<p>モデル地区の継続指定もあって、本年は、“自分で守る、みんなで支える、みんなの健康”をテーマに開催した「健康福祉まつり」（民間組織の哲西地域包括ケア推進会議主催）のサブテーマに“元気な一生、食育のすすめ”を設定して、食育の推進を図ったが、今後も拡大発展させたい。 子供から高齢者まで、みんなで取り組む「食育」を定着させたい。 2年にわたってモデル地区指定を受け、昨年度よりも活動がより深めることができたが、食育の推進は、地域や個々の組織・団体の連携を強くして取り組む必要がある。</p>

食育推進モデル地区の取り組み

保健所名 真庭保健所

地区	川東地区	
実施主体となつた団体	川東食育推進モデル地区推進委員会	
	(団体の特徴) 親子クブブから高齢者までの各種団体で組織、3部会で活動内容を分担、しかも連携を保って活動する。	(団体代表者) 氏名 築 澤 玲 子
取組内容	<p>(地区の特性・選定理由)</p> <p>兼業農家が散在し、野菜や加工品の即売センターを有する地区であるため、地産地消の食生活を推進するには最適な地区と考えて選定した。</p> <p>真庭市食育推進計画より、子どもから高齢者までバランスのよい食事を摂ることを考えた食生活が課題であることがわかったので、子ども達にバランスのよい食事や食生活、郷土料理、行事食などを十分伝えることができる地区民でありたい。</p>	
	<p>(具体的な内容)</p> <p>★幼稚園児…望ましい食生活にはパターンがあることに気づき、川東幼稚園の家族参観日に、おやつを試食で手作りのよさを伝えて関心を高めた。(写真)</p> <p>★小学生…親子クッキングで料理の楽しさ、美味しさが体験できるように心がけた。</p> <p>★男性…調理を実施し、調理の楽しさ、食育事象を体験する。(写真)</p> <p>★高齢者…食育と健康、そして人と会うことの大切さを体験する。会場までの交通手段に難点あり。</p> <p>★地区民一般</p> <p>・運動会で手作りドリンク試飲し、日頃目にすることの少ない地区民に、市販飲料の含有糖分量の展示と適量な糖分の手づくりドリンク試飲とを体験する工夫をした。</p> <p>・食育講演会…食育の要である主婦へ働きかけ、そして地区民への食育啓発の機会とも捉えた。(写真)</p>	



	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいウォーク…多くの地区民へ食育啓発(食と健康、郷土料理)のよい機会と捉えた。 ・赤野収穫祭でのクイズ…食に関する事柄をクイズで楽しみながら気づき、関心をもつよい機会と捉えた。(写真) ・グランドゴルフ、ペタンク大会などのスポーツ大会…地区民への啓発の機会。 ★食育だよりの発行…全家庭へ食育情報を伝える最良の方法。 ★啓発用ポケットティッシュ…アンケートやクイズへの参加賞として食育推進の啓発に。 	 
<p>実施後の結果、成果、効果等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが食生活に気をつけるようになり、料理や仕方に興味を持ち始めた。 ・高齢者は、「みんなで食べると楽しい」と言い、喜んでいる。 ・男性は、食への関心が高まってきている。 ・地区では、食育ポスターが玄関や店先に掲示され、食育への気づきや関心が高まっている。 ・推進委員会は、連携を図りながら協働で食育を推進している。 	
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・親子クラブのおかあさんの課題…レシピを見ただけでは身に付かなく、伝達料理実習を望んでいる。 ・現代の多忙な生活、便利過ぎる生活に慣れ過ぎた今、健全な食生活への関心、気づき、実践など食育推進の困難さ。 	
<p>今後の展開</p>	<p>今年度未展開の活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川東小5年生食育…子どもができる料理に挑戦 ・男性料理教室冬の陣…成果の発表の機会 ・すこやか教室、幼児とのふれあい…大人が子どもに伝える行事食 ・冊子「地産地消で郷土料理を伝えよう」の発行 ・「食育だより第3号」の発行 <p>次年度の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地場産物で郷土料理の伝達 ・親子クッキングの実施 	

食育推進モデル地区の取り組み

保健所名 津山保健所

地区	津山地域（津山市、鏡野町、久米南町、美咲町）	
実施主体 となった 団体	津山地域食育を進める会	
	（団体の特徴） 地域住民、農林漁業者、教育関係者、保護者等広汎な関係者が参集	（団体代表者） 会長 山崎 尚子
取組内容	（地区の特性・選定理由） 周辺地域は過疎高齢化、少子の人口減少が進んでいる。一方小地域での住民の結びつきは強く、様々な住民組織の活動が活発である。子ども達への眼差しは優しく、期待も大きい。農村地域も就農者は多くが高齢者で、子ども世代では農業経験の無いのも普通の現象となった。子育て世代の共働きが一般的となり、食生活の乱れや誤った食の選択に伴う健康問題も起こっている。	
	（具体的な内容） 1 「津山地域食育を進める会」の開催 年2回 2 「みまさか食育まつり」の開催 日時 平成20年11月9日（日） 内容 地産地消フェア（農産物・農産加工品の展示・販売）、食農体験・消費者と生産者の交流 食育クイズ・親子簡単クッキング体験・紙芝居・エプロンシアター 食事診断・各団体活動紹介パネル展示 食育まつり「オープニングイベント」 食に関する相談（食品添加物・食の安全安心）等 3 食育推進研修会 日時 平成20年6月21日（土） 内容 講演「台所に立つ子どもたち」 講師 香川県綾川町立綾上中学校 校長 竹下和男先生 「食の学校」活動発表 4 「食の学校」（食育推進モデル地区） ☆ 田邑8レンジャー（幼児への食育） 活動内容：食の懇談会、食の学校（文化祭・健康祭） クリスマス料理教室（愛育・栄養委員と交流） 子ども料理教室（美作大学生とおやつ作り） ☆津山市北陵中学校（中学生への食育） 活動内容：食育推進メンバー会議、食育ボランティア募集 地域のみんたとふれ合う大鍋まつり（食材の収穫と調理） 食育講座（たくましい体づくり）、親子料理教室 ☆ 誕生寺地区食育を進める会（小学生への食育） 活動内容：誕生寺地区食育を進める会、子ども料理教室 農業体験（じゃがいもの植え付けから収穫） 3世代交流による伝統行事体験（おかざり作り、もちつき、ぎんなんおこわ）	



食育まつり「オープニングイベント」



食育まつり「簡単クッキング」

	<p>☆ 阿波地域元気に楽しく食べる会 20年度新規</p> <p>構成団体：阿波小学校、阿波幼稚園、阿波幼小保護者、加茂郷農業技術者連絡協議会 津山市老人クラブ阿波支部、阿波ボランティアの会、阿波グリーン公社 津山市連合町内会阿波支部、阿波支部愛育委員・栄養委員</p> <p>活動内容：農業体験（サツマイモ、米の有機小農薬栽培）、収穫際・交流交換会 食育講習会、料理研究「ご当地グルメ発掘」、楽しい給食検討会</p> <p>4 食育の普及啓発と情報発信</p> <p>①「毎月19日は食育の日」の横断幕とのぼり作成と掲示</p> <p>②公募した「食の先生」、進める会構成団体の活動をホームページで紹介</p> <p>③各団体の所有している教育媒体の紹介と貸し出し</p>
<p>実施後の 結果、成 果、効果 等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「津山地域食育を進める会」で構成団体同志のそれぞれの活動紹介をしたことにより、構成団体同志が連携した地域活動ができつつある。 ・「みまさか食育まつり」は、構成団体が協働で実施でき、親子を中心として多数の参加者が食を楽しみ、学び、食の大切さを再認識することができた。 ・「食の学校」では、公募により地区を指定したことで、住民が主体的に取り組む食育活動が展開され、地域の関係団体同志の連携も深まった。 ・異年齢での食育体験を通して子どもや親同士のつながりもできた。 ・子どもたちからは、毎回やり遂げた満足感の表れた声を聞くことが出来、関わった保護者や支援者も、子どもの喜ぶ姿に、改めて食の大切さや喜びを再認識できた。 ・活動をすすめていくうちに、地域の関心も高まり、参加者・協力者も増え、食育の取り組みが地域へ広がった。
<p>事業を 実施して 明らか になった 課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食育の取り組みは、様々な組織や「食の学校」で実施されているものの、地域の食の課題を明確化し、数値的に評価できるまでには至っていない。 ・「食の学校」を公募したところ、20年度は新規1校のみであり地域の関係者が連携して取り組む体制づくりを行うことが負担となっているようである。
<p>今後の 展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各モデル地区とも、地域ぐるみの食育活動が実施できているが、今後も継続して食育活動を行っていただけるよう、「津山地域食育を進める会」は情報発信・情報交換を行い、次世代を育てる「食育応援隊」としての役割を果たす。 ・子どもたちが「楽しく正しく食べていきいき育つ」ことを目指して、食の学校や農林・教育・保健分野の先駆的な食育活動を情報交換するなど関係者の連携強化をさらに図り地域ぐるみの食育を推進する。



阿波地区 料理研究「ご当地グルメ発掘」



阿波地区 農業体験「田植え」

食育推進モデル地区の取り組み

保健所名 勝英保健所

地 区	勝央町全体	
実施主体となつた団体	勝央町栄養委員会	
	(団体の特徴) 地域における食生活改善のための取り組みを実施	(団体代表者) 氏名 会長 下山美代子
取組内容	(地区の特性・選定理由) 勝央町では、住民の健康づくりを支援するため、栄養委員会のほか、愛育委員会やその他の関係団体が各種事業に取り組んでいる。しかしながら、「食育」は多種多様な取り組みが求められることから、健康づくりを総合的に取り組んでいる「いきいき金太郎健康の郷づくり推進会議」（以下、「推進会議」という）と連携することで、地域全体への食育活動の展開が期待できることから、町全体をモデル地区と指定する。	
	(具体的な内容) 1 推進会議との連携 推進会議その他の関係団体との協働により、勝央町の特産品を使った料理や簡単に作れる料理のコンクールを開催し、地域の特性を生かした食育活動につなげる。 2 地域食育活動の展開 町内5箇所の保育園や小学生等に向けて、食育をテーマに関係団体と協働して、地域ぐるみの活動を紙芝居やペープサート、調理実習等により展開する。 3 食育の普及啓発活動 昨年度のモデル地区事業で作成した食育リーフレットを各種事業等のあらゆる機会を通じて地域住民へ配布し、地域全体における食育活動のより一層の充実を図る。	
実施後の結果、成果、効果等	1 料理コンクールの開催 地域の特性を生かした食育活動につながるよう、「特産物を使った料理」、「簡単に作れる料理」のコンクールを開催した。なお、優秀作品に選ばれた料理等については、町内で実施する各種事業を通じて地域住民へ知らせ、住民の食育活動を支援する。 2 普及啓発活動 料理コンクールで選ばれた優秀作品等は、「第27回勝央町金時祭」において表彰式を行い、地域住民への周知を図るとともに、参加者約500名に試食を提供した。 その他、町で実施する各種事業を通じてリーフレット等を配布するなど普及啓発を行っている。	

<p>事業で実施して明らかになった課題</p>	<p>1 推進会議からの食育活動の展開 推進会議との協働により料理コンクールを開催したことにより、推進会議の構成員は各組織や地区等で食育に関する取り組みとなるきっかけとなった。しかし、地域住民一人ひとりが食育に対して積極的に取り組んでいるかは把握できていないことから、推進会議を通じて地域の状況を把握することが必要である。</p> <p>2 地域住民の意識 金時祭りに参加した地域住民のうち、食育をよく知っている者は、男性で約2割強、女性で4割弱に留まっている。しかし、食育を学ぶ機会があれば参加したいと思っているのが、女性で約7割、男性でも5割以上であることから、今後とも、食育について学ぶ場の提供等を進める必要がある。</p>
<p>今後の展開</p>	<p>1 推進会議等との協働による幅広い食育活動を展開する。</p> <p>2 料理コンクールで選ばれた作品を各種事業等で紹介するなど、料理コンクール作品を媒体として、地域住民の食育に対する意識を高める。</p> <p>3 地域住民が食育について学べる場を提供する。</p>

各部門最優秀作品

＜特産料理の部＞ ＜簡単料理の部＞



「フワッと黒豆ドーナツ!!」
「大葉とキャベツの出会い」

各部門優秀作品

＜特産料理の部＞ ＜簡単料理の部＞



「まめまめ揚げ」 「かしわとニラ炒め」




地域における食育推進

地域における食育推進

事業名	瀬戸内市玉津地区の小学生（21名）を対象とした食育教室 (平成20年8月21日 玉津コミュニティにて実施)
事業目的	19年度に食育モデル地区として地域における食育推進事業を展開した。その後も協議会による食育を実施し、関係団体と連携をとりながら、食育事業の継続を目的とする。
関係団体	<p>(主となる団体には◎をつけてください)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 瀬戸内市玉津地区食育推進協議会 ・瀬戸内市玉津地区栄養委員(5名)・瀬戸内市玉津地区愛育委員(3名) ・瀬戸内市立玉津小学校(校長先生1名)・玉津地区コミュニティ協議会 ・JAせとうち(現JAおかやま)(1名) ・岡山県栄養士会瀬戸内ブロック(3名)
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地場産物（冬瓜など）の栽培方法や出荷時期などについてJAの方に説明してもらい、地元の産物について学ぶ。  <ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養委員、愛育委員、栄養士会員が地場産物を使った料理を作り、バイキング形式で選んでもらう。 地域の栄養士が、選んだ食材の量や栄養のバランスについて説明をする。  <ul style="list-style-type: none"> ・ 夏休みに気をつけたい食生活（おやつ（水分補給）、朝ごはんなどのバランス、生活リズムなど）について講話を実施。
事業効果	<p>今年度は、協議会員だけでなく食育に関係する団体（栄養士会）による協力があり、昨年以上に個々への事業が展開しやすくなった。</p> <p>今後は、玉津地区だけでなく市内の他の地区において食育事業を実施したい。</p>

地域における食育推進

事業名	東備食育推進啓発事業 (東備の食育すすめ隊がすすめる食育推進啓発事業)
事業目的	食育については、学校等と連携し望ましい食生活習慣を定着するよう心がけているが朝食を食べない子どもや食事が楽しくない子どももいる。子どもだけでなく、親や地域の方々にも食について関心を持ってもらい、朝食の推進や楽しく食べることのきっかけづくりとするため実施した。
関係団体	東備栄養改善協議会
事業内容	<p>食育を効果的に推進するため3つの事業を展開した</p> <p>1 朝食の大切さを訴えた、寸劇「ぼっけえ楽しい朝ごはん」及び「早寝・早起き・朝ごはん」による普及啓発 管内理事を中心とする劇団『東備の食育すすめ隊』を結成し、文化祭や学校等で普及啓発</p> <p>2 普及啓発コーナーの実施 健康まつりや健康まつり等で各コーナーを設けて楽しみながら食に関心を持ってもらった。次のコーナー(①～⑤)から組み合わせて各市町の実態に応じて実施 ①展示②はてなの館③食事バランス体験④食事マナー⑤食の演出 (管内協議会で媒体作成し、各市町協議会で実施)</p> <p>3 普及用ちらしの作成・配布 ①朝食を食べていない人向き ②朝食を食べているがバランスにもうひと工夫が欲しい人向きに2種類作成し、栄養委員が家庭で実際作っている料理も掲載している。上記健康まつり等で配布</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>寸劇の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>毎日食べよう朝ごはんのちらし</p> </div> </div>
事業効果	事業を開始したばかりであり、効果は見ることはまだできていないが、寸劇及び普及啓発コーナーでは楽しみながら親子が学び、食に少しでも関心を持ってもらったように思う。

地域における食育推進

事業名	元気高粱を目指した食育推進事業
事業目的	将来を担う高粱っ子の食生活の自立をめざして若い世代の食を中心とした健康づくりをすすめる。
関係団体	<p>(主となる団体には◎をつけてください)</p> <p>◎岡山県高粱保健所 高粱保健所管内栄養改善協議会 高粱地域「食育と地産地消」推進連絡協議会構成団体</p>
事業内容	<p>1 高粱っ子食育普及啓発事業 テーマ「食生活の自立をめざして」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子料理教室等「子ども達に伝える我が家の料理」 ～3世代交流と地産地消～ ・食育と地産地消を考える会 コミュニティー単位で座談会の実施 <p>2 学園都市高粱の食育推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生の食生活実態調査 ・高粱版食育指針の作成、普及啓発 ・クイズ形式の食育カードの作成、スーパー・コンビニ・飲食店設置による情報発信 ・高校の文化祭、大学の学園祭での栄養委員コーナーの設置 <div data-bbox="938 972 1362 1267" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="975 1294 1305 1482" data-label="Image"> </div>
事業効果	健康づくりボランティアである栄養委員と事業展開することにより、地域の受け入れ体制が良く、食育推進の気運を高めることができた。また、食生活実態調査により、若い世代の朝食を毎日食べる人の割合が低い現状が明らかになったので、今後の事業推進の方向性が明確となった。

地域における食育推進

事業名	夢づくり新見健やかネット事業
事業目的	子供から大人まで、栄養の偏りや、不規則な食事、肥満や生活習慣病の増加、また、食の安全の課題が生じている。こうした食をめぐる環境変化を改善するため、各種団体と連携して各地域の健康づくりに取り組んでいる。
関係団体	(主となる団体には◎をつけてください) ◎新見保健所栄養改善協議会、新見保健所愛育委員会、JA 阿新女性部、にいみ後継者クラブ、新見老人クラブ他13団体と行政機関、
事業内容	<p>食育事業はにいみ食育推進隊として、次のような活動を実施している。各組織との連携を図るため、協働事業としても取り組んでいる。会議で各種団体の食育の取り組み状況を報告していただき、今後の食育活動に生かしている。</p> <p>①食育フェア及びミニ食育フェア 6会場</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p>②すこやかかるた大会 9会場</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>(ネット会議で作成)</p> <p>③食育月間・食育の日の街頭普及啓発パンフレット 85セット配布 (新見駅・サンパーク新見・フレスタ新見等)</p> <p>④食育推進プログラムや食育推進マップを活用した普及啓発 (講習会等)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> <p>(ネット会議で作成)</p> <p>④高校生や短大生を対象とした食育講座 5回</p> <p>⑤朝食大作戦の実施</p> <p>⑥メタボリックシンドローム予防街頭普及 1回 (サンパーク新見) 講習会 6回</p> <p>⑦メタボリックシンドロームと食育についての講演・メタボリックシンドローム予防講習 6回</p> <p>⑧ウォーキング大会 5会場</p>
事業効果	<p>地域住民に対して食育の関心を高めることができた。</p> <p>食育フェアの定着を図り、地域住民から期待されるイベントになっている。この事業で作成した普及啓発資材を活用して各地域で各種団体と連携して、食育に取り組むことができた。今後も連携していく事業を展開する必要がある。</p>

地域における食育推進

事業名	真庭市食育推進大会
事業目的	真庭市食育推進計画に基づく活動の発表や講演会により、市民の食に対する関心を高め、子どもの食育推進や食文化の伝承等を促進する。
関係団体	(主となる団体には◎をつけてください) 真庭市食育推進協議会の構成団体：岡山県真庭保健所、真庭市医師会、真庭歯科医師会、岡山県栄養士会真庭支部、真庭市健康づくり実行委員会、真庭市愛育委員会、真庭市栄養改善協議会、おやこクラブ、真庭地方農村生活交流グループ協議会、農業生産者、真庭農業協同組合、真庭新農業経営者クラブ連絡協議会、真庭地域農産物直売所連絡会議、真庭商工会、真庭観光連盟、真庭飲食店組合、湯原町旅館協働組合、真庭市幼稚園長会、真庭市保育園連絡協議会、真庭市PTA連合会、真庭支部栄養教諭・学校栄養職員部会、真庭市養護教諭、市(学校教育課、商工観光課、農林振興課、子育て健康推進課)
事業内容	<p>①保健医療、農林商工業、教育分野の19組織による活動発表や展示、体験コーナーの開設 ②食育絵画優秀作品の展示 ③精神障害者共同作業所や各種農業関係者による販売 ④久見・二川保育園児とちんどんゆばらによる「まにわ食育ちんどん」のオープニング ⑤食育絵画の表彰 ⑥愛育委員による「野菜の歌」の手遊びと栄養委員による寸劇「まにわう弁当」の活動発表 ⑦香川県綾川町立綾上中学校長 竹下和男先生による講演「弁当の日がやってきた」</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>オープニング：まにわ食育ちんどん 栄養委員による寸劇「まにわう弁当」</p>
事業効果	<ol style="list-style-type: none"> 1 保健医療、農林商工業、教育分野の関係組織が、食育推進大会の開催に向けて活動をまとめて発表した。 2 関係者並びに関係部署の職員の協力体制が向上し、3分野の連携が図れた。 3 子どもから高齢者までの幅広い年代の市民と、市長、副市長、教育長、文教厚生委員の市議や農協組合長等の管理職を合わせて約800人が参加し、盛大に開催できた。 4 市民の感想では、大変好評を博した内容が多かった。 5 多分野が連携して初めての食育推進大会を開催できたことで、次年度の食育推進に大きな弾みがあった。

地域における食育推進

<p>事業名</p>	<p>”地域のちから”育成事業 平成20年度 美作夢づくり協働事業（提案型協働事業）</p>
<p>目的</p>	<p>農業関係者、食品関係者、大学、一般住民等幅広く呼びかけて「食育」に関する各種事業を行うことで、地域の特色ある食文化の継承や地産地消の推進が図られ、地域住民の健全な心身を培い、活力と魅力あふれる津山地域を創造することを目的とする。</p>
<p>関係団体</p>	<p>◎（社）津山青年会議所、サカモトキッチンスタジオ、美作大学、美作大学短期大学部 （社）岡山県栄養士会津山支部、津山市PTA連合会、津山市 JA つやま青年部、JA つやま女性部、岡山県美作県民局</p>
<p>事業内容</p>	<p>①食育に関する講演会 日 時：平成20年8月10日（日） 場 所：ベルフォーレ津山 参加者：150名 内 容：講演「食べることは生きること」 講師 食育・料理研究家 坂本廣子 展示（郷土料理、地域特産物、食育パネル等）</p> <p>②新名物郷土料理コンテスト 審査日：第1次審査 10月 1日（水） 第2次審査 10月18日（土） 審査員：食育・料理研究家 坂本廣子、 美作大学短期大学部教授、PTA代表、 生産者、栄養士会、調理師等 応募点数：53点 グランプリ1点・準グランプリ2点・佳作7点選定 冊子作成：優秀作品10点を冊子にして保育園・幼稚園・小中学校、観光協会、飲食店、弁当業者、市町村等に配布し、随時PRを行った。</p>
<p>事業効果</p>	<p>① 食育講演会では、食の大切さを啓発するとともに、地元の食材や郷土料理について認識を深めてもらい、食を通じた津山地域の魅力を考えることができた。 また、講師の坂本廣子氏は「食」に関する商品企画やマーケティング分析、食の村おこし総合プロデュースも行っているため、自然豊かな津山の風土と新鮮な食材の活用による地域振興についても助言があり、意義のある講演会となった。</p> <p>②新名物郷土料理コンテストでは、地域の農産物や食材を使用した一品料理を対象にし、審査は食育関係団体の協力のもとに実施することができ団体間の連携が図れた。出品作品はいずれも津山地域への郷土愛や家族愛が感じられ、すばらしい内容であった。優秀者10名は、高校生・大学生・親子組・中高年と広い年齢層の方で今後の取り組みに期待が持てる。 優秀作品は冊子にして配布し地域住民に地域の食について見つけ直すきっかけづくりとなった。また、優秀作品3品が地元スーパーで商品化され販売されるなど、地域の活性化につながる事ができた。</p>



地域における食育推進



事業名	食と健康教室	
事業目的	<p>最近の生徒の生活習慣をみると、夜遅くまで起きている者が多くなり、朝食を毎日食べる者も 66%と低くなっている。また、日頃はスポーツ飲料やジュース、菓子類の利用が多く、家族揃っての食事や食事づくりに関する機会が少ない状況であった。</p> <p>そのため、将来の健康に影響を及ぼす時期に自分のからだを見つめ、食と健康についての理解を深め、自ら健康づくりに取り組むことを目的に、管内高校を対象に「食と健康教室」を開催する。</p>	
関係団体	<p>(主となる団体には◎をつけてください)</p> <p>◎勝英栄養改善協議会、県立勝間田高等学校、県立林野高等学校 勝英保健所</p>	
事業内容	<p>【対象】 林野高校の生徒及び保護者（地域住民） 勝間田高校の生徒（1年生）</p> <p>【内容】 伝承料理（黒豆すし）の実演、試食 模擬食育体験コーナー 栄養委員による寸劇やクイズ等体験学習</p>	  
事業効果	<ol style="list-style-type: none"> 1 食育について考える機会を提供することで、自らの食生活を考える場となっている。 2 約4割の生徒（勝間田高校）が、寸劇から食生活の気づきを感じている。 3 参加者のうち（勝間田高校）、35.5%の者が、寸劇で紹介された食生活について、実践したいと考えている。しかし、64.5%は実践してみたいと思わないと回答していることから、今後も継続した支援が必要である。 4 朝食をきちんと食べる生徒は（林野高校）80%であった。思春期食育教室に参加した生徒のうち、「バランスのとれた食事や朝食の意義が理解できた」と答えた者が6割であった。また、多くの生徒が食生活についての自分自身の目標を持つことができた。 	

関係団体における食の安全・食育推進の取組み

関係団体における食の安全・食育推進の取組

団体名	岡山県愛育委員連合会
食の安全・食育関連ホームページの有無	有 (アドレス: http://www.pref.okayama.jp/hoken/kentai/aiiku/toppage.htm)
主な食の安全・食育関連事業	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のお母さんがすすめる健康支援事業 ・各地域で開催される食育推進協議会への参加



平成 20 年度重点的に実施した食の安全・食育関連事業

事業名	地域のお母さんがすすめる健康支援事業
事業目的	乳幼児期、学童期の子どもをもつ親とその子を地域全体で支え合う子育て支援機能の向上を図る。
関係団体	保育園・幼稚園・学校等教育関係機関、公民館、母子クラブ、老人クラブ、栄養改善協議会、栄養士会、青年会議所、中国四国農政局、大学、市町村
事業内容	<p>1 食はすべての基礎となるものであり、あらゆる年代において大切であり、愛育委員会では関係機関・団体とも協力しながら次の内容をあらゆる機会を利用して啓発した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい食生活を身につける活動の推進 ・栄養バランスのとれた食事の推進 ・家族や友人と一緒に楽しく食べることの推進 ・いろいろな味を体験することの推進 <p>2 手作りの教材を活用して、育児相談や、幼稚園、保育園への出前により、食育の推進・啓発を行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p><食育のPR活動></p> </div> <div style="text-align: center;">  <p><親子で栄養バランスを理解></p> </div> </div>
事業効果及び今後の取組(予定)	食育の体験、交流、関係団体の活動紹介などにより、食についての知識を広く普及するとともに、地域での子育て支援機能の向上を図ることができた。今後も、地域の関係機関・団体と協働し、生活に身近な場で保護者と子どもがリフレッシュし、生き生きと育児できる環境づくりや支援を継続する。

関係団体における食の安全・食育推進の取組

団体名	岡山県栄養改善協議会
食の安全・食育関連ホームページの有無	有(アドレス： http://www.pref.okayama.jp/soshiki/detail.html?lif_id=11996) 無
主な食の安全・食育関連事業	<ul style="list-style-type: none"> ・おやこの食育教室 ・スポーツ少年と食育教室 ・朝食毎日食べよう大作戦 ・外食世代の健康づくり推進事業（新生活サポート事業） ・男性のための料理教室 ・高齢者のための低栄養予防食育教室

平成 20 年度重点的に実施した食の安全・食育関連事業

事業名	外食世代の健康づくり推進事業（新生活サポート事業）
事業目的	<p>現代の若い世代では高校卒業後、一人暮らしの開始や就職に伴う生活習慣の変化など、食生活が乱れる状況がおこりやすく、社会的な課題となっている。</p> <p>また、若い世代はスーパーマーケットやコンビニエンスストアなどの外食を頻繁に利用する傾向が見られることから、外食を利用した場合でも正しく食品が選択できるよう、知識の習得をサポートする教室を開催し、健康づくりを支援する。</p>
関係団体	高等学校、大学、行政等
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 リーダー研修会 栄養委員を対象とし、新生活サポート教室を開催するために必要な知識の習得を図るための研修会を行う。 2 新生活サポート教室 リーダー研修会で得た知識を活かして各地域で教室を開催する。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>
事業効果及び今後の取組(予定)	現在は岡山県からの委託事業であるが、今年度で事業の終期を迎えるため、来年度からは同様の事業を協議会独自事業として行う。

関係団体における食の安全・食育推進の取組

団体名	岡山県栄養士会
食の安全・食育関連ホームページの有無	有（アドレス： oka-nut@smile.ocn.ne.jp ） 無
主な食の安全・食育関連事業	<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくり提唱のつどい ・栄養成分表示店普及促進事業 ・スポーツ栄養サホート事業 ・食育促進事業

平成 20 年度重点的に実施した食の安全・食育関連事業

事業名	健康づくり提唱のつどい
事業目的	県民が食事・運動と健康との関わりを知り、その実践の定着を図ることを目的に開催する。
関係団体	中国学園大学・ヤクルト
事業内容	<p>実施月日 平成20年11月22日（土）13時～16時30分</p> <p>会場 中国学園大学 岡山市庭瀬83</p> <p>内容 13:00～ あいさつ 森 恵子 13:05～13:30 踊り「野菜王国」紙芝居等 13:30～14:30 講演 「チャレンジライフ～あきらめないで～」 女子マラソン五輪メダリスト 有森 裕子 14:50～15:30 一緒に歌いましょう 声楽家 東京二期会会員 野崎 幹子 15:30～16:30 講演 「からだの健康を守るプロバイオティクス」 (株)ヤクルト本社広報室参事 三毛 明人 13:00～16:30 食事診断</p> <p>参加者 300名 栄養士会員 100名・一般参加者 200名</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
事業効果及び今後の取組(予定)	講演・合唱等が健康づくりに役立つ内容でとても良かったので今後の食育活動に取り入れたいとの声が多かった。今後も毎年開催する予定です。

関係団体における食の安全・食育推進の取組

団体名	岡山県漁業協同組合連合会
食の安全・食育関連ホームページの有無	有 (http://www.jfnet.ne.jp/ogyoren/oyster/trace.html) (岡なかきトレーサビリティ)
主な食の安全・食育関連事業	・岡山県漁業協同組合連合会として、独自の取り組みはありません。

平成20年度重点的に実施した食の安全・食育関連事業

事業名	「浜の母ちゃん」の親子魚料理教室 ～おいしい瀬戸内海のさかな・のりを食べよう！～
事業目的	「魚離れ」が進む中、次世代を担う子供たちや若いお母さんに、本県の新鮮な魚の美味しさを知って頂くことで、食育の推進を図る。
関係団体	岡山県漁協女性部連絡協議会
事業内容	<p>1. 事業概要</p> <p>夏休みを利用し、県内漁協女性部（日々漁業に従事している浜のお母さんの集まり）が講師役となり、若い人や子供たちを対象に「魚についての知識」「瀬戸の海で獲れた魚を使った料理」「食べ方」「簡単な加工品作り」などの講習を行い、「新鮮な魚の美味しさ」を『浜の香り』とともに伝える。こうした取り組みにより、若い人や子供たちの『魚離れ』の一因となっている「魚は骨があるから食べるのが面倒だ」とか「生臭さが苦手だ」などの払拭を図る。</p> <p>2. 主催 全国漁業協同組合連合会・岡山県漁協女性部連絡協議会 後援 岡山県漁業協同組合連合会・岡山県・岡山市・岡山県お魚普及協会</p> <p>3. 開催月日：平成20年7月29日（火）10：00～14：00</p> <p>4. 開催場所：〒702-8024 岡山市灘崎町片岡2468 おかやまファーマーズマーケット・サウスウイレッジ 調理実習室</p> <p>5. 体験内容：新鮮な魚の見分け方・魚の捌き方・保存の仕方・魚の名前等</p> <p>・メニュー：①ご飯物（チリメンまぜご飯）②刺身（ハネの鹿の子造り）③汁物（あらの潮汁）④揚げ物（小魚の唐揚げ）・地あなごの天ぷら⑤サラダ（シーフードサラダ）⑥デザート（フルーツ寒天（天草産））</p> <p>6. 募集人員 親子（又はおじいちゃん、おばあちゃんと孫）{小学生} 15組 約30人</p>
事業効果及び今後の取組（予定）	<p>事業効果：親子で楽しく取り組んでおり、地道ではあるが、確かな手ごたえを感じる。</p> <p>今後の予定：来年度以降についても、ほぼ同様の内容で継続実施予定</p>

関係団体における食の安全・食育推進の取組

団体名	岡山県歯科医師会
食の安全・食育関連ホームページの有無	無
主な食の安全・食育関連事業	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における『食』教育支援 ・ ・ ・



平成 20 年度重点的に実施した食の安全・食育関連事業

事業名	学校における『食』教育支援
事業目的	学校と学校歯科医に対し『食育』をどう捉え展開するか
関係団体	岡山県・岡山県教育委員会・岡山県養護教諭部会
事業内容	<p>1. 研修会の開催</p> <p>日時 平成20年11月27日</p> <p>場所 岡山衛生会館 三木記念ホール</p> <p>参加者 養護教諭・幼稚園歯科関係者・学校歯科医師など 約450名</p> <p>演題1 「むし歯の地域格差を考える」 講師 岡山大学大学院医歯薬総合研究科予防歯科学 森田学 教授</p> <p>演題2 「学校での食育をどう捉え展開するか」 講師 昭和大学歯学部口腔衛生学 向井美恵 教授</p> <p>2. 歯科からみた学校における食育ガイドラインの作成（現在作成中）</p> <p>概要：幼児から学齢期を中心に食べ方・味わい方・食器の使い方などを中心とした内容の冊子。</p>
事業効果及び今後の取組(予定)	

関係団体における食の安全・食育推進の取組

団体名	岡山県小学校長会（倉敷市立沙美小学校）
食の安全・食育関連ホームページの有無	有（アドレス： http://www.kurashiki-oky.de.jp/school/sami-e/ ） 無
主な食の安全・食育関連事業	・学校給食の実施 ・校内研究（食育） ・地域ふれあい料理教室

平成20年度重点的に実施した食の安全・食育関連事業

事業名	健康フェア
事業目的	児童が、朝ごはんや給食、おやつなど、身近な食べ物や食事の役割に関心をもち、よりよい食べ方について進んで考えたり、食べ物を大切にしようとする気持ちを高めたりすることができるようにする。
関係団体	倉敷市立沙美小学校
事業内容	<p>(1) 食に関する指導の具体的な取組 学校における食に関する指導全体計画に基づき、食に関する指導の具体的な取り組みの柱を3つにして、年間を通じて行った。</p> <p>①食に関する授業の充実 ②給食の時間や特別活動の取組 ③家庭や地域・生産者との連携</p> <p>(2) 健康フェアの位置づけ ②の特別活動（学級活動）の1単位時間を活用し、全学年で行った。 健康フェアは、年3回実施し、T・Tで担任と栄養教諭が授業を行った。 テーマは、1回目（5～6月）いただきます！朝ごはん 2回目（7月）夏の飲み物大丈夫？ 3回目（11月）お弁当バイキング</p> <p>(3) 「いただきます！朝ごはん」の展開 17年度より、このテーマで、食の大切さに目を向けた学習を進めてきている。望ましい食習慣に向けたスモールステップアップをめざして、よりよい食習慣の定着をまず朝ごはんからと捉えて行ってきた。授業の中で、望ましい朝ごはんの組み合わせを「おはようトレー」を使って行ったり、朝ごはんの4つの効用に気づかせたりして学習を進めた。また、保護者に対して、学習したことを食育だよりで紹介したり、手軽に用意できる朝ごはんのレシピを配布したりした。栄養教諭と担任が、発達段階や学級の実態に応じて、教材研究し、指導の方法を工夫して、実践した。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">朝ごはんの4つの効用</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #ffffcc;"> <ul style="list-style-type: none"> ・体の時計にスイッチON! ・おなががすいた 脳に栄養! ・体温を上げて やる気アップ! ・「うんこ」に合図! </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;"> おにぎりは、何色かな？ </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;"> お赤は・黄う・緑レのー </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div> </div>

関係団体における食の安全・食育推進の取組

団体名	岡山県消費生活問題研究協議会
食の安全・食育関連ホームページの有無	有（アドレス： ） 無
主な食の安全・食育関連事業	<ul style="list-style-type: none"> ・親子で学ぶ食育教室（岡山支部） ・地産地消研修会（津山・鏡野・笠岡支部） ・食品表示に関する研修会（倉敷・玉野・笠岡・瀬戸内・真庭・美作支部） ・食品の流通に関する研修等（井原・真庭支部）



平成 20 年度重点的に実施した食の安全・食育関連事業

事業名	親子で学ぶ食育教室（岡山支部）
事業目的	調理実習を通じて、食事を作る楽しさ、食べることの喜び食に感謝する気持ちを持ち、食文化を子ども達へ伝える。
関係団体	岡山市栄養改善協議会
事業内容	<p>食事を作る楽しさが経験できるように、参加する子どもが積極的に調理に関わることができる献立で調理実習を実施。調理の前には、よい食習慣を身につけることの大切さや、当日使う食材を用いて、産地の確認や地元の食材や旬の食材を使用することの良さなどを学べるようにしている。</p> <p>公民館やコミュニティハウスなどを利用し岡山市内各地で1回20人から40人を集めて教室を開催。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div>
事業名	地産地消研修会（津山・鏡野支部）
事業目的	地域の児童達がどのような給食を食べているか理解を深める。
関係団体	—
事業内容	<p>平成 20 年 9 月から、新設された津山市戸島学校給食センターで給食調理がスタートし、これまで一部弁当持参だった小学校を含め、津山市内全ての小中学校で給食となった。</p> <p>同給食センターの栄養士の指導により、実際に提供される給食メニューを調理するとともに、学校給食でどのように地産地消が実践されているのか学習した。</p> <p>◆日時：平成 20 年 11 月 21 日 9:30～13:30 ◆場所：戸島学校給食センター ◆参加人数：15 名</p>
<p>その他、中国四国農政局及び保健所の職員を講師として招き、食品表示に関する研修会を開催したり、中国四国農政局と食の安全に関する懇談会を開催する等の取り組みを行っている。</p>	
事業効果及び今後の取組(予定)	各地域で幅広く会員を組織している消費者団体として、各地域の実情に応じて、食育、地産地消、食の安全・安心に関わる事業を企画、実施していくこととしている。

関係団体に於ける食の安全・食育推進の取組

団体名	社団法人岡山県食品衛生協会
関連連ホームページの有無	① http://ww91.tiki.ne.jp/~okayamafha/ 無
主な食の安全・食育関連事業	<ul style="list-style-type: none"> ・体験科学で知る食の安心事業 ・食品等事業者による自主検査促進事業 ・食の検定事業（検定一晴れの国おかやまの食、親子検定） ・現地視察型リスクコミュニケーション事業

平成20年度重点的に実施した食の安全・食育関連事業

事業名	<ul style="list-style-type: none"> ①体験科学で知る食の安心事業 ②食品等事業者による自主検査促進事業
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ①食の現場に於ける体験と意見交換煮より小異飛車の食に関する理解を深めることを目的 ②食品事業者の責務である自主検査を実施し、消費者に対する食の安全安心を啓発することを目的
関係団体	(社) 岡山県食品衛生協会各支所
事業内容	<p>①岡山県食品衛生協会および9支所管内において、食品の生産あるいは製造の現場での視察や各施設において意見交換会を行い、食の安全に対する取り組み等を学んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施期間 平成20年7月～平成21年1月 ・体験施設 18施設 ・参加者 581名  <p>②自主検査促進事業</p> <p>食品衛生法において定められた食品等事業者の責務である自主検査を定着させ、食品等の安全確保と消費者の安心を図るため、協会会員への啓発と認定証および認定プレートの交付を行っている。</p> <p>平成20年交付数 47施設</p> 
事業効果および今後の取組（予定）	<p>①について・・・直接生産者との意見交換会等が行われ、消費者から表示や添加物、あるいは衛生管理等いづれの会場においても活発な質問が行われた。</p> <p>好評であったので、できる限り継続事業として考えている。</p> <p>②さらに当事業の啓発に努め、平成21年は50施設以上の交付を目標としている。</p>

関係団体における食の安全・食育推進の取組

団体名	岡山市中央卸売市場青果物消費拡大推進委員会
食の安全・食育関連HP	有（アドレス ） ③
主な食の安全・食育関連事業	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み 親子市場勉強会 ・自分で作る朝食チャレンジ！親子料理教室 ・講演会『『ベジフルセブン』を知っていますか？』（市場関係者対象）

平成20年度重点的に実施した食の安全・食育関連事業

事業名	夏休み 親子市場勉強会
事業目的	<p>日常生活の基本となる食生活に関して、中央卸売市場には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○公正かつ迅速な取引の確保 ○生鮮食料品等の円滑な供給と消費生活の安定を図る ○生鮮食品の衛生保持 <p>等の役割があり、食品流通の中で果たす役割は大きいながらも、消費者にとっては馴染みの少ない場所として捉えられがちです。その場所に実際に親子で足を運んでもらい、青果物流通に携わる人たちの話を聞くことで、中央卸売市場を「生活に欠かせない存在」として捉えてもらうことを目的として開催致しました。</p>
関係団体	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山市中央市場事業管理部 ・岡山市教育委員会
事業内容	<p>市場のしくみ、野菜・果物への知識を楽しみながら深められるような構成を考えました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せり見学及び模擬せりの体験 ・市場のしくみについての話 ・野菜・果物の栄養についての話 ・岡山県産ぶどうの特色について（ブドウ5種類の食べ比べ実施） ・○×クイズ
事業効果及び今後の取組み	<p>イベント直後に実施した参加者アンケートでは、せり体験の印象深かった様子がうかがえました。その他、「果物でも栄養が取れることが分かった」という意見もあり、まだまだ消費者に青果物をアピールしていく必要があることを強く感じました。</p> <p>今後の取組みとしては、2月21日に大人を対象とした市場勉強会を企画しており、新しいスタイルの食育事業展開を計っていく計画を予定しております。</p>





関係団体における食の安全・食育推進の取組

団体名	岡山県農山漁村生活交流グループ協議会
食の安全・食育関連ホームページの有無	有（アドレス： ） 無
主な食の安全・食育関連事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統料理講習会や加工体験実習の実施 ・ 地産地消フェアや消費者交流会の開催 ・ 伝承冊子や体験マップ等の啓発資料の作成・
平成 20 年度重点的に実施した食の安全・食育関連事業	
事業名	地域文化の伝承・食育活動
事業目的	農山漁村に昔から伝わってきた行事・郷土料理などを次世代に伝えつつ、時代に応じた食文化を創造する。
関係団体	各地方生活交流グループ協議会(9 地方協)
事業内容	<p>○「おばちゃんの知恵・技伝承講座」の開催 県下各地方協で一般消費者・小中高生を対象に郷土料理や手作り加工品の伝承活動を展開した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>手打ちうどんの講習</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>柏餅の技術伝承</p> </div> </div> <p>○学校との連携による農業体験指導 農作業体験や収穫物を使っての料理を指導し、「食の先生」として活動を展開した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>サツマイモの植え付け体験指導</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>直売所での消費者交流</p> </div> </div> <p>○消費者との交流による地産地消の推進 県下各地の直売所を核に、消費者交流や地産地消フェアを開催し、安全な農林水産物の供給に取り組んでいる。</p>
事業効果及び今後の取組(予定)	・ 伝承冊子や体験マップなどにより、効果的な食文化の伝承活動ができており、「食の先生」としての位置づけを確立したい。

関係団体における食の安全・食育推進の取組

団体名	全国農業協同組合連合会 岡山県本部
食の安全・食育関連ホームページの有無	有 (アドレス: http://home.oy.zennoh.or.jp/) 無
主な食の安全・食育関連事業	○ 食育授業ならびに体験型イベントの開催 ○ 国産農畜産物消費拡大街頭活動



平成 20 年度重点的に実施した食の安全・食育関連事業

事業名	食育授業ならびに体験型イベントの開催
事業目的	保育園・小中学校や地域に出向き、農業に関する興味や知識の高揚を図るとともに、農産物に対する理解を深める。
関係団体	岡山市内の保育園・小中学校、全農岡山県本部他
事業内容	<p>○ 保育園での食育出前授業 内容：野菜ソングの披露及び試食等 (4 保育園 延べ 220 名参加)</p> <p>○ 小学校での食育出前授業 内容：野菜の産地と栄養価について (ベジフルマイスター) 野菜ソングの披露及び試食 模擬セリ、食育喜劇等 (7 小中学校 延べ 1,970 名参加)</p> <p>○ 小学生対象農作業体験 (水稻) 内容：田植え・稲刈り実習、試食会 (1 小学校 80 名参加)</p> <p>○ 特産野菜の親子料理教室 内容：特産品の品目紹介と料理教室 (一般消費者 25 名が参加)</p> <p>○ 地域食育イベントへの参加 内容：野菜ソングの披露及び試食 (一般消費者 300 名が参加)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
事業効果及び今後の取組(予定)	

関係団体における食の安全・食育推進の取組

団体名	NPO 法人 津山市消費生活モニター連絡会
食の安全・食育関連ホームページの有無	有 (アドレス: http://www.geocities.jp/monitor_ren/)
主な食の安全・食育関連事業	<ul style="list-style-type: none"> ・当会は1994年より、「循環型社会を作る」「水環境を守る」「<u>食の安全を考</u>える」を三つの柱に「地球環境を守ることは生命を守ること」を基本理念として活動している。 ・2007年7月15日に、美作県民局と共催で「みまさか食育まつり」開催 ・2008年度は、美作県民局との協働事業で「リユース食器貸出事業」に取り組んでいる。リユース食器を使うことで、食べ残しが殆ど無くなり、食べ残さずの大切さを実感し、ごみの減量にも役立っている。

平成20年度重点的に実施した食の安全・食育関連事業

事業名	みまさか食育まつり
事業目的	子どもとその親が食の大切さを再確認し、食について楽しく学び、食に関する正しい知識と選択する力を身につける場として食育まつりを開催した。
関係団体	津山地域食育を進める会・美作県民局主催
事業内容	<p>200年11月9日 アルネ津山周辺 参加人数：700名</p> <p>「津山地域食育を進める会」に参画し、「みまさか食育まつり」に参画</p> <p>展示内容：「食品添加物」について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「食品を選ぶポイント」「避けたい食品添加物」など 「リユース食器の貸し出し」 「リユース食器の使用により、食べ残しを少なくし食の大切さを実感してもらう <p>目的：「消費者の保護・子どもの健全育成」</p> <p>単品では安全性が保障されている添加物。できるだけ添加物の少ない食品を選ぶポイントを知らせる</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>食品添加物の展示</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>リユース食器貸出現場作業</p> </div> </div>
事業効果及び今後の取組(予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・食品について考える機会を作ったことにより、食育に繋がったと思われる ・今後も食の安全を考え、啓発を続けていきたい

関係団体における食の安全・食育推進の取組

団体名	農林水産省中国四国農政局
食の安全・食育関連ホームページの有無	・中国四国農政局ホームページ http://www.maff.go.jp/chushi/sesaku/syouan/index.html
主な食の安全・食育関連事業	食の安全と消費者の信頼の確保と食育の推進

平成 20 年度重点的に実施した食の安全・食育関連事業

事業名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「食の知っ得講座」等を通じた「食」に関する情報提供 2. 消費者の信頼の確保のための食品表示の適正化等 3. 生産段階における農畜産物の安全性の確保 4. 日本型食生活の推進
事業目的	食の安全と消費者の信頼の確保と食育の推進
関係団体	都道府県等
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「食の知っ得講座」等を通じた「食」に関する情報提供 <ol style="list-style-type: none"> ① 消費者の視点を第一においた食品行政を進めるための消費者団体等との意見交換会の実施 ② 出前型の出張講座や消費者相談等の実施による食に関する情報の提供。 2. 消費者の信頼の確保のための食品表示の適正化等 <ol style="list-style-type: none"> ① J A S 法に基づく適正な食品表示の普及のための講習会の実施、小売店舗等における食品表示の監視と不適正表示の是正等。 ② 牛トレーサビリティ制度の適正な運用のための個体識別番号の表示・伝達状況の監視指導等 3. 生産段階における農畜産物の安全性の確保 <ol style="list-style-type: none"> ① 農薬等生産資材の適切な使用状況等調査の実施 ② 農業生産工程管理手法（G A P 手法）の普及等 4. 日本型食生活の推進 栄養バランスに優れた日本型食生活の実践の普及啓発のためのパネル展示、資材の配布、アンケートの実施、食品事業者等への働きかけ等
事業効果及び今後の取組(予定)	平成 21 年度においても 20 年度と同様の事業を継続予定

関係団体における食の安全・食育推進の取組

団体名	岡山県生活協同組合連合会
食の安全・食育関連ホームページの有無	有 (アドレス: http://okayama.coop/quality/index.htm) 無
主な食の安全・食育関連事業	<p>おかやまコープの取り組みから</p> <p>おかやまコープでは、ISO9001の国際規格に即し、品質マネジメントシステムを実現し、組合員満足を継続的に向上させていく取組みをすすめています。また、食の安全総合政策として、食の安全に対する考え方、輸入食品に対する考え方、表示に対する考え方など食の安全を求める組合員の願いを実現し続けていくことを目指しています。</p> <p>また、これまで取り組んできた「生産者の顔が見える産直商品」、「地産地消商品」の取り扱いを引き続き強め、食料自給率向上を重視した取組みをすすめています。</p> <p>食育関連事業では、一人一人が食べることを大切にできることや、自分にとって望ましい食生活を考え実現できる力を養うこと、大人も子どもも主体的に食事に取り組める力をつけることを大切にすることを視点に食育活動に取り組んでいます。</p>

平成20年度重点的に実施した食の安全・食育関連事業

事業名	食の安全と食育に関するシステム改善と組合員学習
事業目的	この間の食品被害や不祥事が多発する中で、食品を安全に供給する事業者としての責任をはたすことと、一般消費者の不安を軽減し、「情報を読み解く」消費者の啓発・成長を促すこと。
関係団体	おかやまコープほか県内の購買事業に取り組む会員生協
事業内容	<p>①日本生協連の「品質保証体系の再構築計画」を受け、商品開発からお届けまでの品質保証の仕組みの再確立を行いました。</p> <p>②商品媒体やHPを通しての、加工地・原産地掲載などの情報提供。</p> <p>③組合員の代表による「食の安全総合政策見直し特別委員会」において、見直し検討を行いました。</p> <p>④行政の企画に参加する中で、食の安全、食品表示について学習を行いました。</p> <p>⑤「食と健康」の視点から、「たべる・たいせつ活動」を展開、食料自給率向上に向けた学習(食育)活動につながった。また、国の補助事業の教育ファームに取り組み、農業体験を通して生産者と消費者との相互理解が深まりました。</p>
事業効果及び今後の取組(予定)	<p>・食の安全への取り組みや食育を推進していくなかで、組合員の満足度を継続的に向上させていくこと。</p> <p>・品質マネジメントのシステムの充実、行政との協働や意見交換会への参加、教育ファームの取組みなどすすめます。</p>

*事業内容には、事業の概要、日時、場所、参加人数等をご記入の上写真等を適宜挿入してA4サイズ1枚に収めてください。

6 食育推進の今後の方向

食育を県民運動として推進するためには、身近な市町村、地域における食育の推進が必要です。

地域では、すでに多くの食に関する取組が実施されています。しかし、個々の取組については、特定の分野で限られた機関によって実施されています。多様な分野の人々が参加すれば、地域の食を広く深く知ることができ、お互いの取組やその特徴を理解し合うことで、連携が進み、新たな取組へと発展することも期待できます。また、食に関する取組を継続的に推進するためには、多様な関係者の連携と協力のもとにその体制の維持が必要です。特に食育推進の中心は地域住民なので食育に関する様々な情報をわかりやすく提供するとともに住民の意見や考え方を積極的に把握し、反映していくことが重要です。

今後は、多様な関係者との連携と協力のもとに、地域で住民の意見や考え方が反映した取組に結びついていくことを期待します。